坂口（さかぐち）遺跡

調査の概要

坂口遺跡は、東加茂郡旭町大字池嶋字坂口に所存する。遺跡は矢作川によって東西方向に形成された谷地形の左岸、河岸段丘高位面に位置し、川に向かう北向きの緩斜面（標高約114m）に立地している。調査は県道島崎豊田線拡幅工事の事前調査として、平成3年度に行われたが、この結果、さらに西側にも遺跡が展開することが確認できた。このため前年度調査区西隣の拡幅予定地に対して、平成4年4月から8月まで調査が行われた。

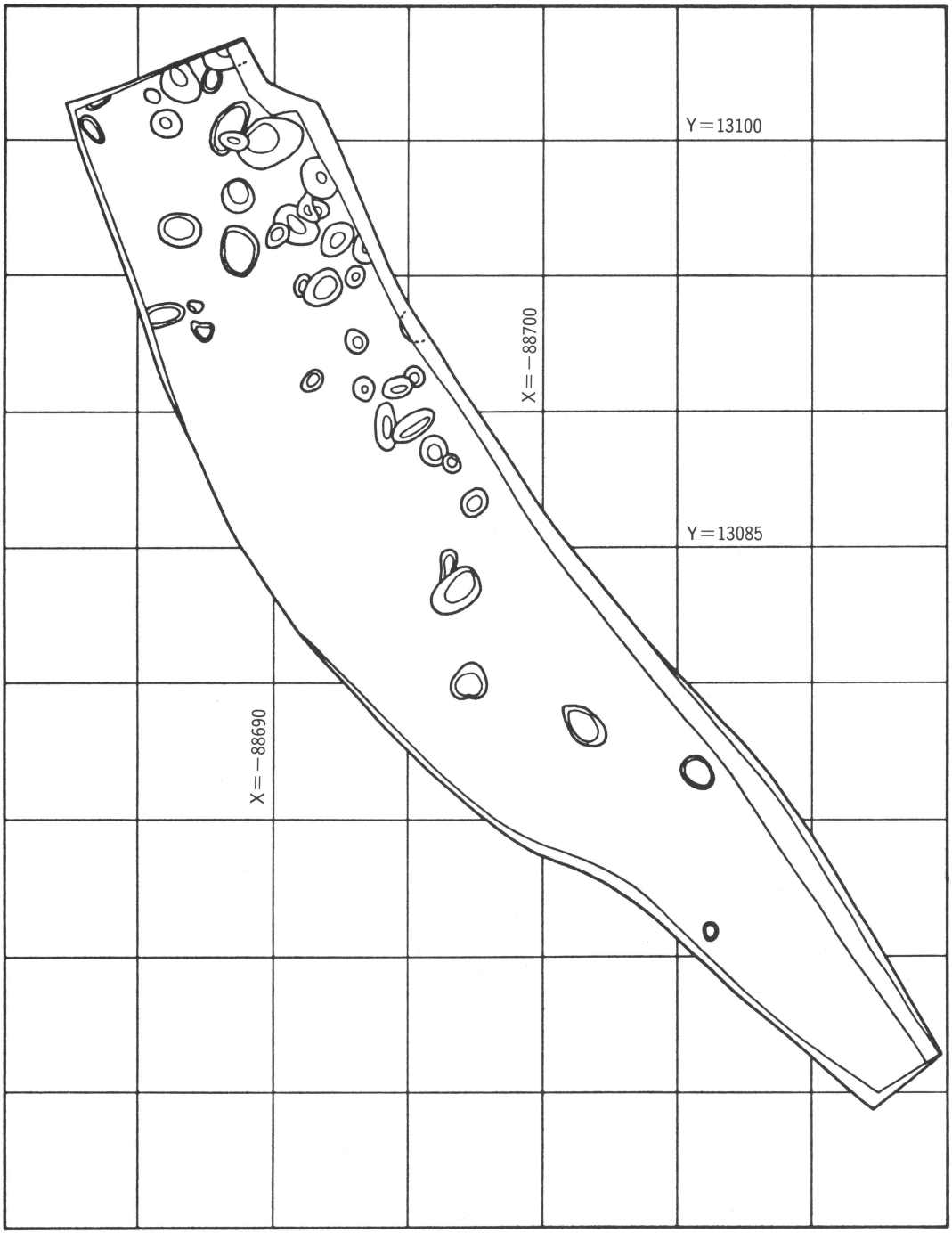
基本層序は昨年度と同様と考えられるが、宅地造成における平地確保のために耕作土、攪乱土層と併せて遺物包含層の上部が削平されており、遺存度は昨年度の調査区の方が良好であった。調査区は拡幅予定地であるため現県道に沿って設定されたが、地形は西に向かうにしたがい上がっていた。遺物包含層は水平堆積から斜行堆積に変化するにしたがい薄くなり、さらに間層によってこれが分かれていた。したがって斜面堆積している部分が平面的に削平され、地形の上がっている部分で削平を免れた包含層も存在したため、層序の見極めに難を要した。

検出した遺物は昨年度と同様に、縄文早期から晩期までの各時期にわたる土器、石器である。但し最終検出面において見出せた土坑状の落ち込みに伴うものは僅かであった。

今回調査を行った坂口遺跡の遺構、遺物は、報告書作成のため昨年度分と併せて、現在整理検討中である。当該期の矢作川流域における文化動態を窺う上で、本遺跡の資料がその一助となることを期待したい。　（松田　訓）

全景（北東より）

作業風景



第Ｉ図　調査区遺構図